

年 月 日/

学校 年 組 番 なまえ

2025年2月19日付

つくばで実証実験

空飛ぶクルマの影響調査

次世代の乗り物として注目を集める空飛ぶクルマの普及に向け、都市や建築上の視点から課題を洗い出す実験が18日、つくば市境のつくばヘリポートであり、報道陣に公開された。国立研究開発法人建築研究所（同市）が中心となって取り組み、本年度は騒音や振動など周囲への影響を調査する。



実験で使われている空飛ぶクルマ（手前）＝つくば市上境

使用する機体は中国製で、2人乗り。8本のアームに計16枚のプロペラが付いている。大きさは全長7.4m、幅7.4m。バッテリーで動き、航続距離は35km。パイロットは搭乗せず、事前にプログラミングされたルートを自動飛行する。価格は5千万～6千万円程度。実験は15、16、18日の3日間実施。敷地内に設けたプレハブ小屋に風速や騒音、振動を計測する機器を置き、機体などの程度の影響を与えるかデータを集めた。比較のためにヘリコプターも使って調査している。

実験を担当する企業Air X（東京）によると、空

建築研、騒音や振動

飛ぶクルマはヘリコプターより音が静かで、垂直離着陸ができるため狭い場所でも運用できるのも特徴。多数のプロペラを備えることで安定性もあるという。

公開実験では、無人の空飛ぶクルマを3回飛行させた。離陸後は敷地内のプレハブ小屋周辺の高度30m付近を周回し、高度100m地点でもホバリングした。建築研究所によると、空飛ぶクルマの普及には離着陸場の整備が課題の一つ。建物の屋上に造られることも予想されている。

同研究所の宮内博之上席研究員は「都市や建築の視点で言うなら、何が問題なのかまだ明らかになっていない」と指摘した上で、「風や騒音の影響を調査しながら、社会的な受容性、離着陸場の設置場所などの研究を中長期的に進めたい」と話した。（今橋憲正）

クロスアイ
HPに動画

【問1】 空飛ぶクルマの実証実験の目的は？

都市や建築上の視点から課題を洗い出すため

【問2】 実験ではどのようなことを調査した？

風速や騒音、振動など

【問3】 空飛ぶクルマの特徴は？

ヘリコプターより静かで、垂直離着陸できるため狭いところでも運用できる



よ
読めない文字は、かぞくや、ともだちにきいてみてね